

## 編集後記

今回のニュースレターでは、全体を通して、周縁化された様々な人々への社会的対応に必要性や多様性、そしてその人権、というところが重要なキーワードをなっている。日本は、いったんは福祉国家を目指し、そしてその後、福祉社会、地域共生社会を目指して進んできた。しかし、その動きの中で、さまざまなニーズが浮き彫りになり、社会の在り方そのものを問わなければならない時代となってきたといえよう。会員が各地で取り組んでいる取り組み、そして学会のテーマとしても人権と多様性は大きな位置を占めていることが分かり、仲間がいることの心強さを感じた。

一方で、研究として、学会として何に取り組むかという点では、これからの課題も感じる。学会や会議で学ぶだけでなく、大半が研究者である学会が内部での議論だけでなく、どのような役割が果たせるのかは、引き続き大きな課題であると感じる。オーストラリアからのレポートを読み、他国に学ぶ重要性を改めて感じた。日本も同様の課題に直面している。

これからも社会福祉や国そのものの在り方を巡る議論は進む。自分自身が研究者として何をすべきか自問自答しながら進んでいる。日本社会福祉学会において、社会課題の解決や研究にいそむ会員の存在やたゆまぬ活動は本当にありがたい。

有村 大士(日本社会事業大学)